

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

↑問題点②(部分利用)

たとえば、美術の時間に、「好きなように描きなさい」と言われて、好きなように描くのは、とても楽しいものだよね。上手だろうが下手だろうがおかまいなしに、自分が描きたいように描いたら、それだけですごく満足感があるんじゃないか。

逆に、自分がどう描きたいのかわからないまま、なんとなく人の真似をして描いたり、上手に描かなくちゃと思って描いたりするのは、ちっとも楽しくない。たとえそれでいい点をもたらしたとしても、なんだか空虚くわくい感じが残るんじゃないか。

また逆に、君が人の描いた絵を鑑賞する側にまわるとしよう。確かに上手にまとまってるのはいいんだけど、なんだかどこにもありそうな感じで、つまらなく、この人ほんとはどう描きたかったのがよくわからない、そういう絵と、決して上手とは言えないけれども、迷いがなくて、独創的で、この人はこれを描きたかったんだということがはっきりとわかる魅力的な絵とがあるの気がつくだろう。両者の違いは、描いた人の、心の構えだ。

本物と偽物にせという言い方がある。本当のものと、似せのものだ。よく、一流のブランド品なんかは、類似品るいじにご注意下さいってあるだろ。つまり、オリジナルとコピーだ。本物は本物だから本物だけであり得るのに対して、偽物は偽物だから本物がなければあり得ない。自分ひとりであることができない。だから、独自であるということが、本物であるということの意味だ。

そして、この本物と偽物という二種の区別は、社会的に問題にされやすいブランド商品だけではなくて、すべての物、すべての事柄ことばら、すべての分野について言えることなんだ。絵画や音楽、芸術の諸分野から、文章表現による文学や思想、学問の諸分野まで、人間の行なうすべてのことについてだ。そして、人間の行なうことすべては、その心の行なうことなのだったね。だから、本物が偽物かというのは、その人間の心の構え、つまり、その人が本物か偽物かということに他ならないんだ。

そうだな、わかりやすい身近な例から考えてみようか。

↑問題点①

独自であるということが本物であるということの意味だと言ったけど、これはやさしいようで難しい。いや本当はちっとも難しくはないんだけど、いつもすごく誤解されているんだ。よく、個性的な人になりなさいとか、個性的な人になりたいとか言うよね。でも、人は、個性的になろうとして個性的になるわけじゃない。なぜなら、そんなことをしなくたって、現にすべての人は個性的だからだ。同じ人は二人としていないからだ。

もしも、個性とは、個性的になろうとしてそうなるようなものであるなら、そこには必ず他人との比較かくがあるはずだ。人と同じようにはするまい、人と同じようにはなるまいという、他人を気にする気持ちがあるはずだ。だったら、どうしてそんな人が個性的であるはずがあるだろう。本来のその人がそうである仕方であるのではないからだ。それできっとそういう人は、わざと変わったことや珍めずしいことをして自己けんじ顕示する、いわゆる奇をてらう振るまいをするだろう。そういう振るまいを見て、君は、わざとらしいなと感じるだろう。個性的であるということと、人と違おうとするということとは、まったく逆のことなんだ。

でも、もしも君が、本物と偽物の見分けがまだうまくつかなくて、そういう人やそういう人のすることを個性的だ、彼は独自の人なんだと思ってしまったりしたら、君はこれから自分の見る目を鍛たくえていかななくちゃダメだ。たとえば一流のブランド品なんかは、みんながそれを一流だ、いいものだと言うから一流になっただけで、その商品そのものは、じつはちゃんとした偽物かもしれない。流行の書物や人物なんかは、それが流行するだけで、偽物である場合がほとんどだ。そうは言っても、本物を見抜ける人は世の中には稀まれだから、みんながいいと言っているという理由で、それがいいと思ひ込んでしまってるだけなんだ。でも、本当にいいものを知らないで、偽物にだまされたまんまであるなんて、ばかばかしいと思わないか。

本物を見抜ける目をもとう。本物を見抜ける人間になろう。そのためには、いいかい、君が本物の人間にならなくちゃダメなんだ。本物を見抜けるのは本物だけなんだ。ここには動かせない対応があるんだ。

人の真似をする、逆に、人の真似はしなくても、あえて人と違おうとする、それは偽物だと言った。どうしてそうなるかということ、どうしてもそうしたいことが、その人にはないか、あるいはわかっているからか。けれども、本物はそうじゃない。人が何と言おうが、誰にどう見られようが、彼はそれがしたい。彼はそうするしかできないんだ。それをするのでなければ、彼にはもう生きてる理由なんかはない。その意味で、彼はそれをするに命と人生のすべてを賭かけているんだ。

↑問題点②(省略箇所)

本物が偽物かという問いを理解するのも、やはり本物の人だけだ。偽物ばかりが横行する今の世の中を生きてゆくのは、本当に大変だ。でも、偽物の人生を生きて死ぬよりは全然大変ことじゃない。だから、本物の人間になろう。君は、君だけは、本物を見抜ける本物の人間になろう。

(池田 晶子『14歳からの哲学』より)

↑問題点③(出所の明示)

※自己けんじ顕示…自分の存在を他人の前で目立たせようとすること。

問一 本文中の□について、入るべき例を次の「注意」に従って、考えて書きなさい。

↑問題点①

「注意」

○全体を二文構成で、九〇字以上一二〇以内で書きなさい。

○二文目は「一方で」という書き出しにしなさい。(以下・略)